

油井富雄 著

『現代に蘇る漢方医学界の巨星 浅田宗伯』

本著は「医療タイムス—週刊医療界レポート」で2009年4月6日No.1912から2010年7月26日No.1975にかけて掲載されたものを、浅田宗伯を中心に再構成して出版された本である。浅田宗伯の幼少の頃から晩年に至るまでを様々な資料を用い、描いていく。

特筆すべき記事としては、幕末のイギリス、フランス進出の裏側についてであろう。油井氏は、浅田宗伯の医学的な事象の列挙にとどまらず、人間関係、政治関係の方向から紐解いていく。油井氏は、福沢諭吉の談話集から、ロッシュが外交交渉の一環として浅田宗伯を指名したという説をとり、関係をあきらかにしていくところが圧巻である。イギリスは薩英戦争以降、薩摩と太いパイプをもっていた。フランスの日本進出についてはロッシュに託されていたおり、ロッシュが、幕府中枢に深く食い込み、軍事顧問という仕事をまとめ上げ、その速やかな遂行とさらなる大きな仕事のために、診療を口実に、何かが行われたという福沢の説をあげ、「診療とは口実のみ、ロッシュ

はかねてより宗伯が小栗の信用あることを探知。治療に託してこれに親しみ、小栗との間に交通を開き、こと謀りたるもの、さすが外交の手腕とみるべし」を引用している。これを裏付けるように、様々な事実を著者は列挙していく。まさに、ジャーナリストならではの慧眼であろう。

宗伯の治療記録から「一、この一封、川路家に御届け下されべく候」とする書簡や、川路聖謨の『座右日記』『千里飛鴻』『東洋金鴻』などの様々な文献を扱い、宗伯と川路の関係を繙く。また、明治期の漢方の存亡、温知社の解散の事情、湯島聖堂の神農像の来歴、脚気治療や浅田飴誕生秘話も掲載されている。

幕末から明治にかけての医学研究、東洋医学・医史学を扱っている者にとって、極めて有益な書と言えよう。諸家のご一読を希望する。

(松岡尚則, 別府正志, 中田英之, 栗林秀樹)

[医療タイムズ社, 〒380-8692 長野市県町,
TEL. 026 (234) 3847, 2010年10月, 四六判, 260
頁, 1,800円+税]